大学体育研究　24：151－156，2002

韓国のサッカー事情について

萩原　武久

A report on Korea soccer circumstances

Takehisa Hagiwara

1　はじめに

2002年3月23日から27日まで，韓国大田市（テジョン市）で開催された「2002韓・中・日」国際親善少年サッカー交流大会に選手団団長兼監督として参加した。

この大会の目的は，2002年ワールドカップ韓日共同開催に当たり，開催当事国としての日韓両国と，周辺国である中国を含めた3カ国の子どもを対象に国際親善「少年サッカー大会」を開催し，未来の主人公である子どもたちに，国際親善交流意識を高めると共に，国際間の理解と友好親善を通じて世界の平和に寄与することを意図して開催された。

参加チームは，韓国：板岩初等学校，邊洞初等学校，中国：揚州市少年サッカーチーム，日本：豊橋市選抜チーム，つくば市選抜チームの5チームであった。

写真1　韓・中・日　国際親善少年サッカー交流大会つくば市選抜チーム

2　参加のための心構えについて

つくば市の選抜チームは，旧桜村の7つの小学校から選出された6年生19名で構成された。選出方法については，各チームが様々な方法で選手を選抜してきたために，個々の能力の差は歴然としており，初めからどのようにチームを構成するか頭を悩ますことになる。そこで子どもたちには，1）サッカーのチームとして試合を行うためのディシプリンについて　2）国際交流の目的と意義について，の2点について理解と認識を求めた。

1）の具体的内容

○韓国，中国の仲間がどんなことをするのか，

写真2　ホームステイする家庭の人達とのパーティー

写真3　試合風景

写真4　試合でハットトリックを達成した日本の子どもへの韓国少女たちのサインぜめ

できるのかを自分の目と肌で感じること

○試合に出るとか出ないに拘わらず，個人個人の役割を知り責任を果たすこと

○ポジションについては，2つ以上のポジションができること

この3点をベースにして試合のための戦術を具体的に掲げた。

○全員攻撃，全員守備が基本なので，ボールを奪ったらそこからすぐに攻撃に移り，ボールを失ったらそこからすぐに守備に入ること

○シンプルでスピーディーなゲーム展開を心がけること

この上記を要約してキーワードを『前』に設定する。

2）の具体的内容

○ホームステイを通して，韓国を知り，韓国の国民を知り，韓国の全てを知ること

○つくばのそして日本の代表であることを忘れないこと

以上を踏まえて，7回のトレーニングと韓国の生活や習慣等のレクチャーも受け出発の準備を整える。

3　日本と韓国のサッカーの関係

韓国が日本の植民地から解放された1945年以降も，サッカーの交流は決して平坦であった訳ではない。

解放後，両国が対戦した最初は，1954年のスイスワールドカップの予選である。「もし負けたら，玄海灘に身を投げろ」と，当時の李承晩大統領の言を受けた選手たちは一戦目を5対1，二戦目を2対2としてワールドカップの出場権を獲得した。

FIFAの規定では，予選はホーム　アンドアウエイで行われることになっていたが，この大会は2試合とも日本で実施された。

また，2年後の1956年のメルボルンオリンピック予選も，李承晩大統領は日本選手団が韓国に入国することを許さなかったため，2試合とも日本で行われた。

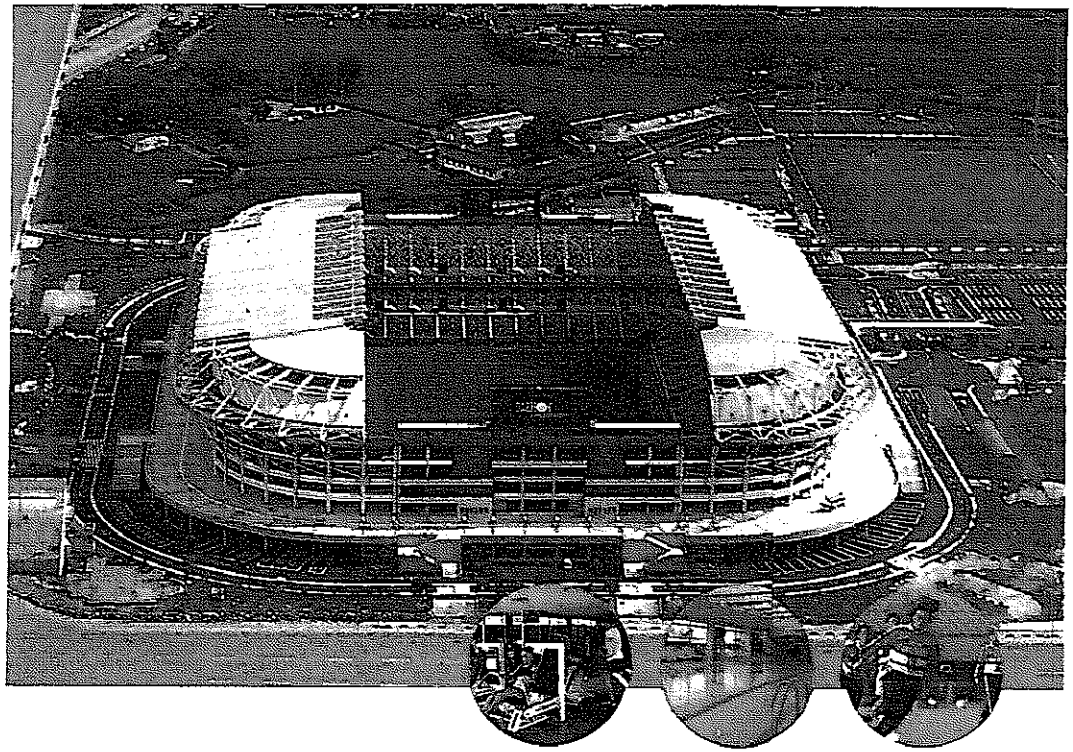
日本チームがソウルで初試合を行ったのは，1960年のチリワールドカップ予選の時である。初戦はソウルの孝昌競技場で行われ，韓国が2対1で勝利を収めた。

続く第2戦は，1961年新装なった国立競技場で行われ，日本はホームでも0対2で敗退した。

その後の韓国は，ワールドカップに1986年のメキシコ大会から，イタリア，アメリカ，フランスと4大会連続出場を果たし，2002年の日韓共催の今大会を含めると，5大会連続6回目の出場となり，日本の2大会連続2回出場に大きく差をつけている。

4　韓国の少年サッカー

少年サッカーに限らず韓国のスポーツは全てがエリートだと言える。今回試合をした板



2002FIFAワールドカップ™は

21世紀初めて開催される世界最大のサッカーの祭典
ワールドカップ史上初のアジア大会で、韓日共同開催
観客数320万人、TV視聴者延べ600億人を予想

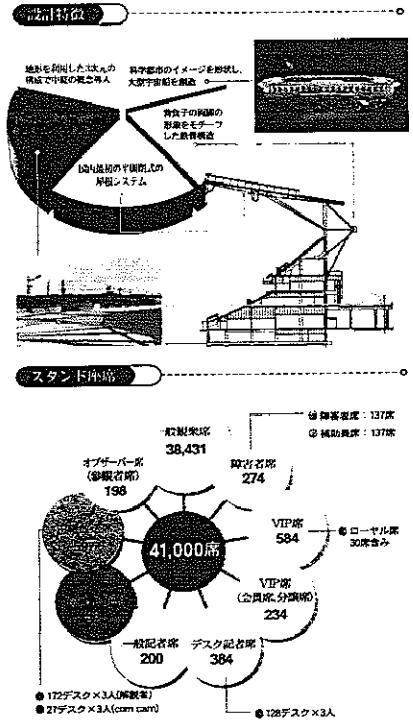
テジョンワールドカップ競技場について

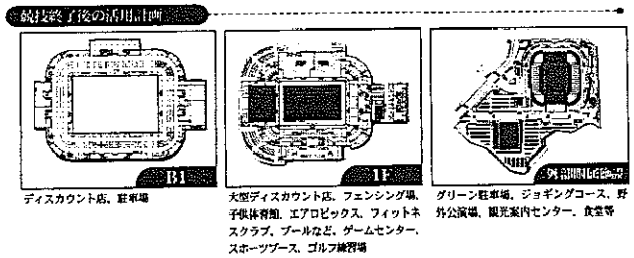
所在地：大田広域市儒城区老隠洞270番地(儒城インターチェンジ前)
用　途：サッカー専用競技場
規　模
・敷地面積：172,378㎡
・建築規模：地下1階、地上5階、延べ面積100,662㎡(30,450坪)
・座席数：41,000席
・駐車場：1,753台
工事期間：1998年12月 ～ 2001年9月
特　徴：韓国伝統家屋の中庭のようなくつろぎを追及した。
また、15mずつ開閉できる屋根は観客席の67%を覆
うことが可能。

大会後の競技場活用計画

設計段階から2002FIFAワールドカップ™後の活用を考慮した施工、
市民がくつろぎ、楽しめるような市民公園を目指している。
・スポーツ施設：ゴルフ練習場、スポーツジム、プール、エアロビクス、児童専用体育館、体力測定室
・文化施設：インターネット図書館、スポーツ博物館、カルチャーセンター
・その他の施設：ディスカウントショップ、食堂街、軽食コーナー、ゲームセンター、コーラテッ(未成年者専用の禁酒・禁煙ディスコ)、お土産品店、ユースホステル

写真5　テジョンワールドカップ競技場

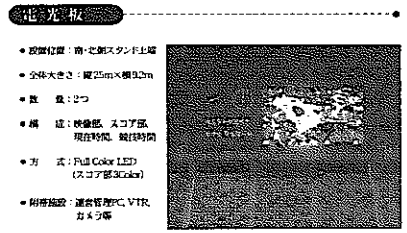




ディスカウント店、駐車場

大型ディスカウント店、フェンシング場、子供体育館、エアロビックス、フィットネスクラブ、プールなど、ゲームセンター、スポーツブース、ゴルフ練習場

グリーン駐車場、ジョギングコース、野外公演場、観光案内センター、食堂等



資料１　韓国大田市ワールドカップ競技場の特徴と競技終了後の活用計画

岩，邊洞両初等学校は1500人を超える大きな小学校である。その中でサッカーのできる子どもは，1学年で10人程度の者である。それでは，その子どもたちはどのようにして選ばれるのだろうか。

その条件は，『学業成績が優秀であること』『サッカーの資質，能力が高いこと』『指導者（コーチ）への指導料が負担できる経済力があること』がサッカーを続けるための条件になる。従ってそれらの条件を満たし，そこでサッカーをしている子どもたちは自信と誇りを滲ませ，常に外に向かってアピールするようなプレーには目を見張るばかりである。今回の日本チームは，間もなく中学生になる直前の6年生で構成したため，新学期の始まったばかりの韓国の新6年生とは，体格においては相当優位な状況であったことは事実であり，結果的にはそのことが勝敗を左右することになる。対戦成績は2勝1敗と勝ち越すことはできたが，勝敗だけでその結果を評価すべきではないと思う。

この3戦を通して，日本と韓国の少年たちのプレーを検証してみたい。

先ず第1に挙げられるのが，『どのような局面においても，相手との戦いを挑んでくるハート，ファイティングスピリットの強さと勇気』，第2には『瞬間的な速さ』，第3は『基礎技能の確かさ』が挙げられる。

一番目のファイティングスピリットは，ボールを保持した攻撃時にその傾向は顕著であり，日本の少年たちとの差を強く感じたところである。

二番目の瞬間的な速さは圧倒的に差をつけられている部分で，トレーニングで効果を上げにくいことを考えると，この問題は将来にわたって日本のサッカーに重くのしかかってくる課題であると思われる。

三番目の基礎技能は，サッカーで言えばボールが正確に蹴れて，飛んできたボールを上手くコントロールし自分の支配下におけるかどうかと言うことだが，その当たり前のことが身体は小柄でも，日本の少年よりも卓越した技を持ちプレッシャーの中でそれらが実践できている。

5　大田（テジョン）ワールドカップ競技場

大田はソウルから170KM南西にある，人口150万人のつくば市に似た研究学園都市である。1993年には，大田世界博覧会を開催し，それを記念してのEXPO科学公園は規模，内容共につくば市にあるものとは比較にならず，テーマパークとして偉容を誇っている。

ここに新設されたテジョンワールドカップ競技場は，科学都市のイメージを形状し，大型宇宙船を創造した外観と，半開閉式の屋根システムを備えたホスピタリティに富み，競技終了後の活用計画まで見越した競技場である。見学に際しては，持ち物のチェックなどは厳しかったが，中に入るとゴールの後ろにある2カ所の電光板には，見学をしている少年たちが映し出されると言う粋な計らいもしてくれた。

この競技場では南アフリカ対スペイン，ポーランド対アメリカの予選リーグと，決勝トーナメントの1試合が行われる。

6　おわりに

21世紀を担う感性豊かな少年たちにとって，国や文化を超えた交流ができることの意義は

写真6　ワールドカップへ向けた韓国大田市内

写真7　ワールドカップへ向けた韓国大田市内

計り知れないものがあることは言うまでもない。ましてや，過去の関係が平坦ではなかった韓国であれば尚更のことである。

少年たちは，サッカーの試合を通して，ホームステイによる韓国の人たちの家庭生活を通して，文化や生活習慣を知り，韓国の人々を理解し，韓国という国それ自体を，敏感な感性と目でしっかりと理解した筈である。

これらのことが，過去における長年のわだかまりや誤解を解き，未来の日韓関係に与える影響は容易に予測することができる。

過去の歴史を変えることはできなくても，未来の歴史を変えることができることは，参加者全員が感じたことであると思われる。

韓国サッカー界も，コーチング法等で過渡期にさしかかっているのが現実であるが，だからと言って日本が数歩先に行っている事実もない。

日韓の関係は将来に渡って良きライバルであり続けることであり，そのためにも2002年日韓共催ワールドカップの成功は必須要件でもある。